

第47回 新井商工会議所 会員景況調査報告書

※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計してもかならずしも100とはならない場合があります。

※ 本年度より設問を変更しておりますが、過去の設問と統合性のある箇所については、過去の数値と整合し集計しています。

調査概要

当調査活動は、新井商工会議所管内の会員事業所を対象に各業種の景気動向をはじめ、事業所が抱える経営課題やニーズを把握するため、半期毎に「企業景況調査」を実施しています。

1. 調査対象期間

令和8年4月～6月期の実績、及び令和8年7月～9月期の見通しについて調査

2. 調査時点

令和8年6月30日

3. 調査対象

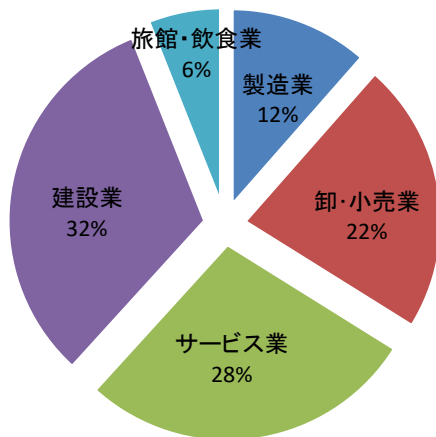
新井商工会議所会員企業584社（調査対象外40事業所は除く）

○調査対象事業所区分 ※本年度より新たに『宿泊・飲食業』の区分を追加。

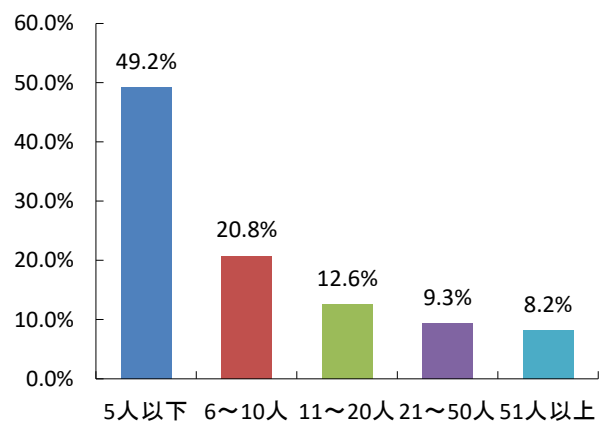
業 種	製造業	卸・小売業	サービス業	建設業	宿泊・飲食業	合計
企業数	21	41	51	59	11	183
構成比	11.5%	22.4%	27.9%	32.2%	6.0%	100.0%

規 模	5人以下	6～10人	11～20人	21～50人	51人以上	合計
企業数	90	38	23	17	15	183
構成比	49.2%	20.8%	12.6%	9.3%	8.2%	100.0%

回答企業業種別構成比



従業員規模別構成比



4. 調査方法

郵送またはWEB回答

5. 回収状況

回収件数 183件/584件（回収率 31.3%）

6. DI(デフュージョンインデックス)景気動向指数

景気動向全体を表すように工夫された指数で、いわば景気の早見表

$$DI = (\text{増加・好転・上昇などの回答割合}) - (\text{減少・悪化・下降などの回答割合})$$

調査結果概要

今回の調査結果のポイント

※ 本年度より設問を変更しておりますが、過去の設問と統合性のある箇所については、過去の数値と整合し集計しています。

※本年度より『宿泊・飲食業』の業種区分を新たに設けました。

今期景況・来期見通し(全体)

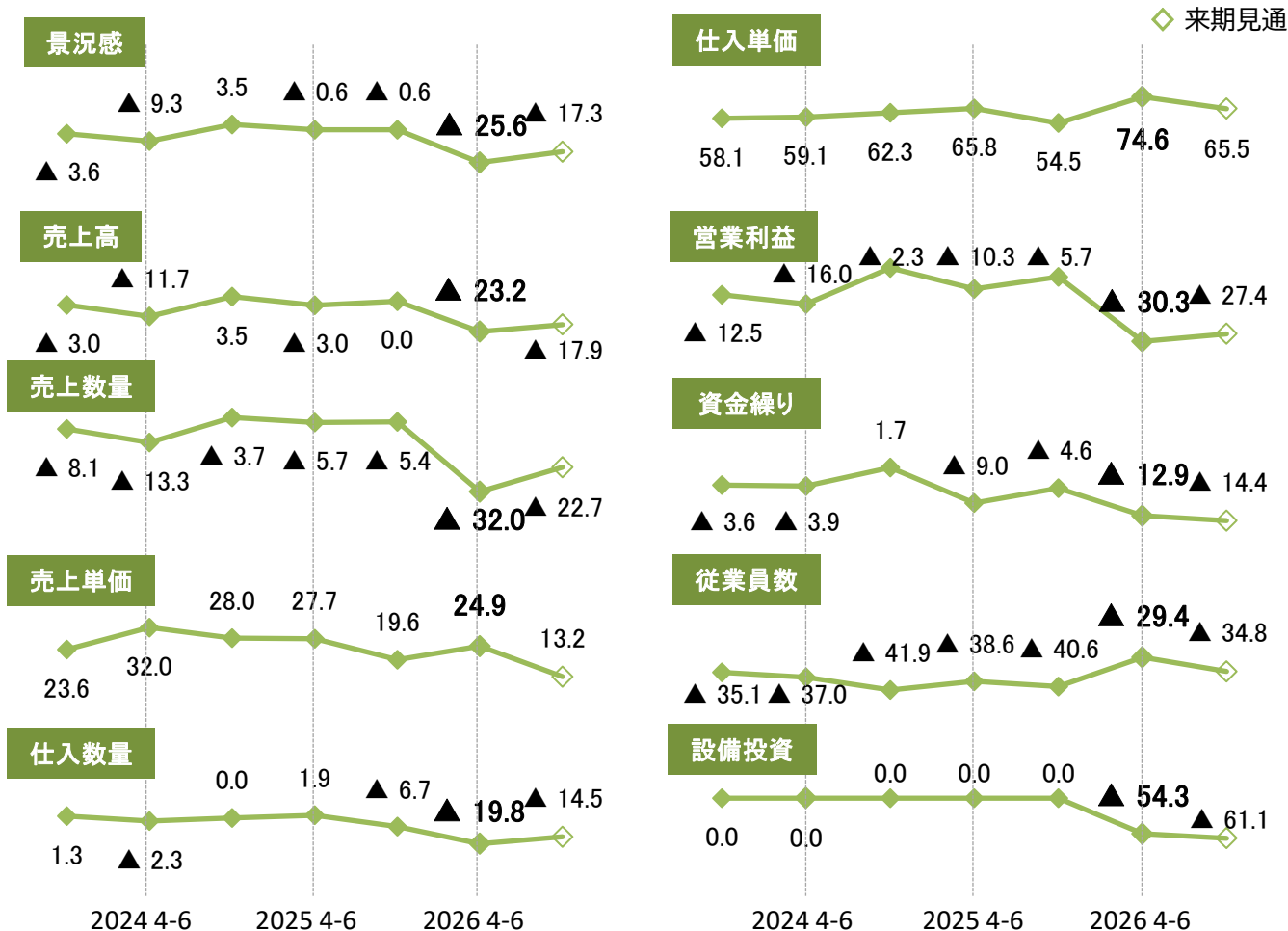
今期の景況は、原材料・エネルギー価格の高止まりや物価高の影響により、売上高や営業利益が落ち込み、景況感は大幅に悪化した。

来期は一部で持ち直しの動きが期待されるものの、人件費や仕入価格の高止まりに加え、売上単価の上昇幅の縮小、販売価格の見直しや人手不足などの経営課題が続くことから、見通しは緩やかな改善にとどまり、厳しい経営環境が続くと見込まれる。

■全産業DI

	2023 10-12	2024 4-6	2024 10-12	2025 4-6	2025 10-12	2026 4-6	2026 7-9
景況感(前年同月比)	▲ 3.6	▲ 9.3	3.5	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 25.6	▲ 17.3
売上高(前年同月比)	▲ 3.0	▲ 11.7	3.5	▲ 3.0	0.0	▲ 23.2	▲ 17.9
売上数量(前年同月比)	▲ 8.1	▲ 13.3	▲ 3.7	▲ 5.7	▲ 5.4	▲ 32.0	▲ 22.7
売上単価(前年同月比)	23.6	32.0	28.0	27.7	19.6	24.9	13.2
仕入数量(前年同月比)	1.3	▲ 2.3	0.0	1.9	▲ 6.7	▲ 19.8	▲ 14.5
仕入単価(前年同月比)	58.1	59.1	62.3	65.8	54.5	74.6	65.5
営業利益(前年同月比)	▲ 12.5	▲ 16.0	▲ 2.3	▲ 10.3	▲ 5.7	▲ 30.3	▲ 27.4
資金繰り(前年同月比)	▲ 3.6	▲ 3.9	1.7	▲ 9.0	▲ 4.6	▲ 12.9	▲ 14.4
従業員数(今期の過不足)	▲ 35.1	▲ 37.0	▲ 41.9	▲ 38.6	▲ 40.6	▲ 29.4	▲ 34.8
設備投資	-	-	-	-	-	▲ 54.3	▲ 61.1

※DIとは、各調査項目についての増加(好転・上昇・余剰)割合から、減少(悪化・下降・不足)割合を差し引いた値を示す。

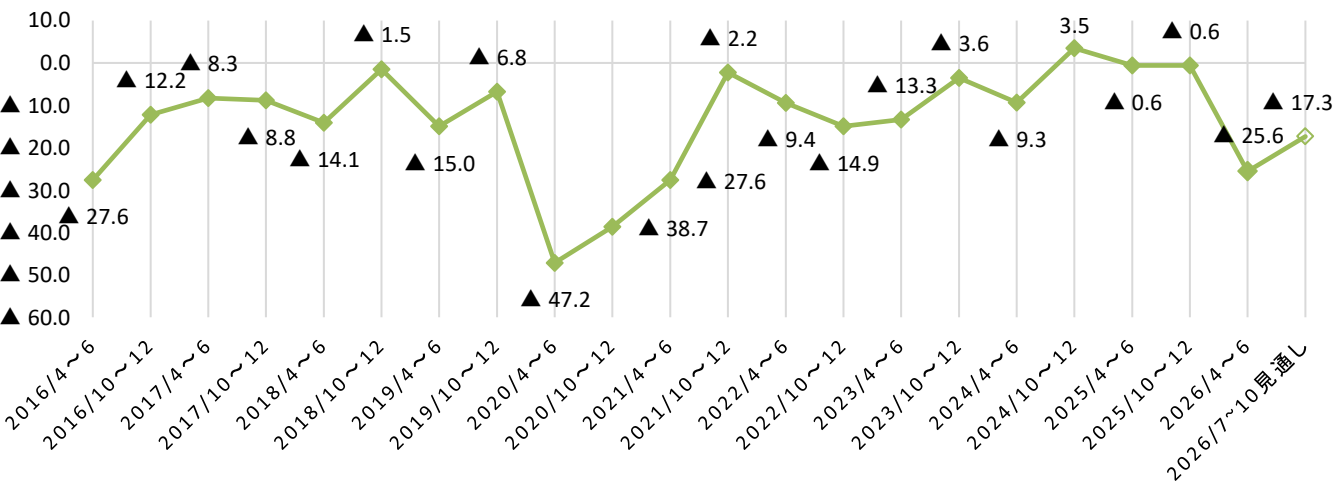


1. 景況感

動向

- 2026年4～6月期の景況感DIは全体で▲25.6となり、前回調査(2025年10～12月期)の▲0.6から5.0ポイント悪化した。業種別では製造業を除く全業種でマイナス幅が拡大し、特に建設業、サービス業で悪化が目立った。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で▲17.3となり、今期から8.3ポイント改善する見込みである。業種別では卸・小売業、建設業、宿泊・飲食業でマイナス幅の縮小が見込まれる。

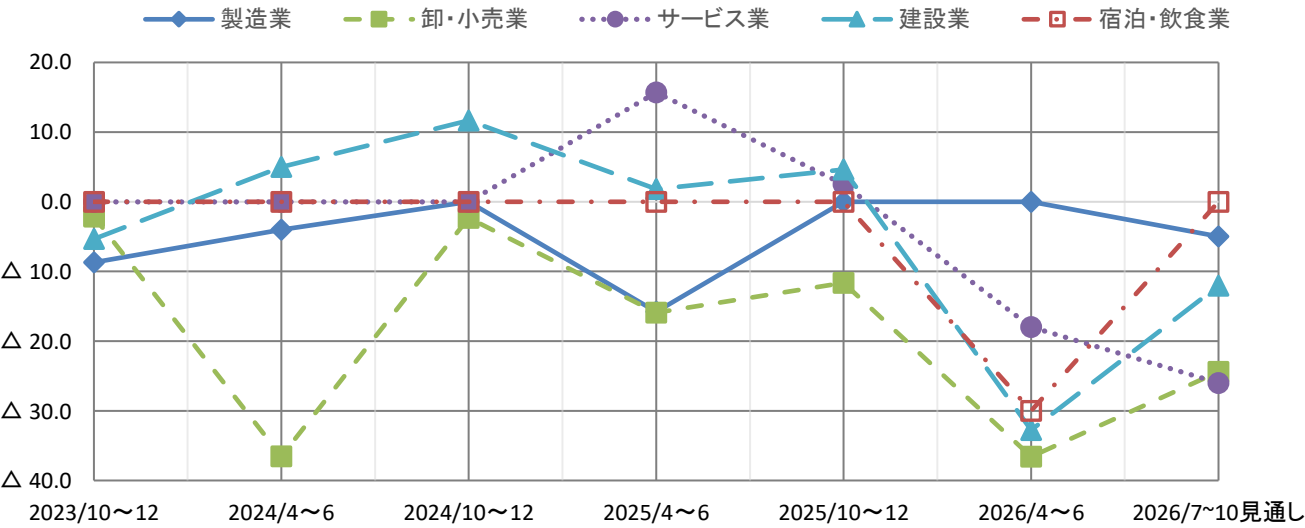
全業種平均DI 《好転－悪化》の推移



業種別DI値

	前回	今回	(内訳)			見通し
			■ 好転	□ 不変	■ 悪化	
全業種	▲ 0.6	▲ 25.6	10.0	54.4	35.6	▲ 17.3
製造業	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	▲ 5.0
卸・小売業	▲ 11.6	▲ 36.6	7.3	48.8	43.9	▲ 24.4
サービス業	2.5	▲ 18.0	8.0	66.0	26.0	▲ 26.0
建設業	4.6	▲ 32.8	5.2	56.9	37.9	▲ 12.1
宿泊・飲食業	-	▲ 30.0	10.0	50.0	40.0	0.0

業種別景況感DI 《好転－悪化》の推移

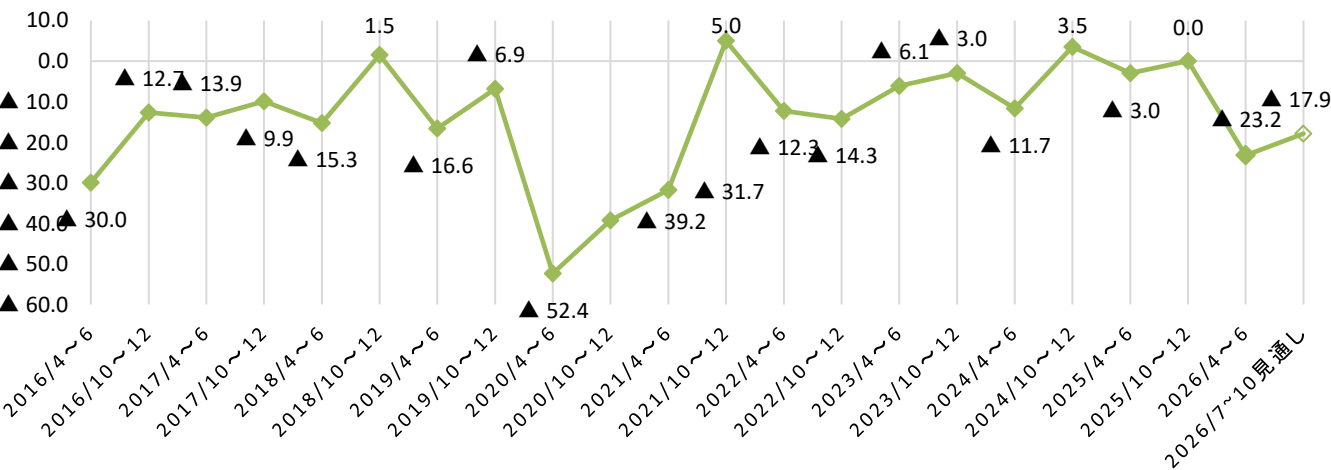


2. 売上高

動向

- 2026年4～6月期の売上高DIは全体で▲23.2となり、前回調査(2025年10～12月期)の0.0から23.2ポイント低下した。業種別では卸・小売業、サービス業、製造業でマイナス幅が拡大した。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で▲17.9となり、今期から5.3ポイント改善する見込みである。業種別では製造業、卸・小売業、建設業でマイナス幅の縮小が見込まれる。

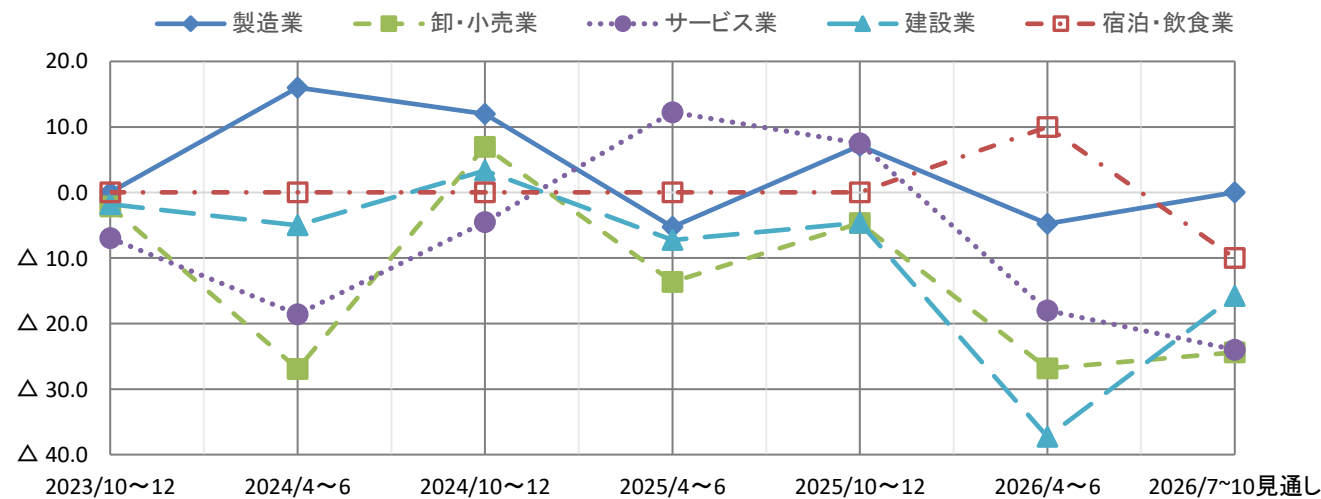
全業種平均DI 《増加－減少》の推移



業種別DI値

業種	前回調査DI (2025年 10～12月期)	現況(2026年4～6月期)			現況DI (増加－減少)	見通し(2026年7～9月期)			見通しDI (増加－減少)
		増 加 (%)	不 変 (%)	減 少 (%)		増 加 (%)	不 変 (%)	減 少 (%)	
全業種	0.0	14.9	47.0	38.1	▲ 23.2	11.7	58.7	29.6	▲ 17.9
製造業	7.1	28.6	38.1	33.3	▲ 4.8	19.0	61.9	19.0	0.0
卸・小売業	▲ 4.7	14.6	43.9	41.5	▲ 26.8	9.8	56.1	34.1	▲ 24.4
サービス業	7.5	14.0	54.0	32.0	▲ 18.0	6.0	64.0	30.0	▲ 24.0
建設業	▲ 4.6	8.5	45.8	45.8	▲ 37.3	12.3	59.6	28.1	▲ 15.8
宿泊・飲食業	－	30.0	50.0	20.0	10.0	30.0	30.0	40.0	▲ 10.0

業種別売上高DI 《増加－減少》の推移

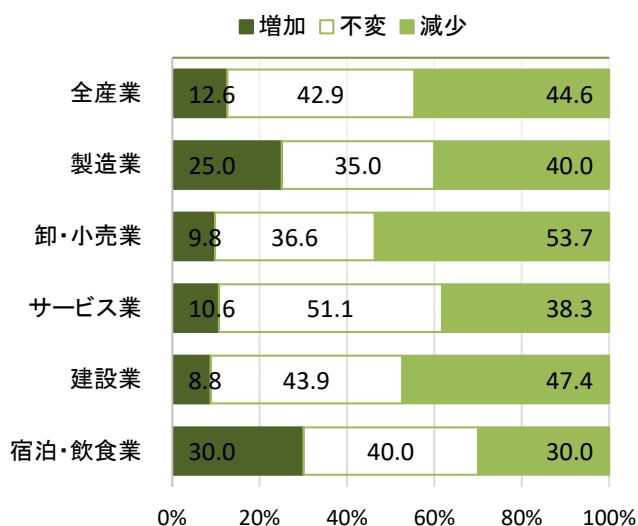


3. 売上数量

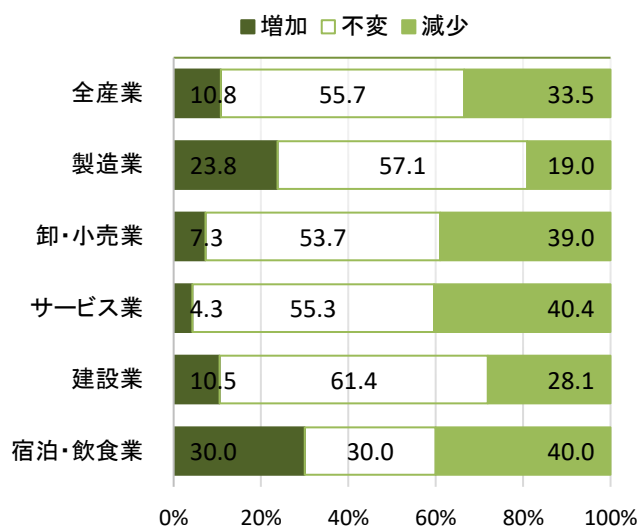
動向

- 2026年4～6月期の売上数量DIは全体で▲32.0となり、前回調査(2025年10～12月期)の▲5.4から26.6ポイント低下した。「増加」は12.6%、「不変」は42.9%、「減少」は44.6%であった。業種別では卸・小売業で「減少」の割合が53.7%と最も高かった。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で▲22.7となり、今期から9.3ポイント改善する見込みである。

【現況】(2026年4～6月期、前期比)



【見通し】(2026年7～10月期、前期比)

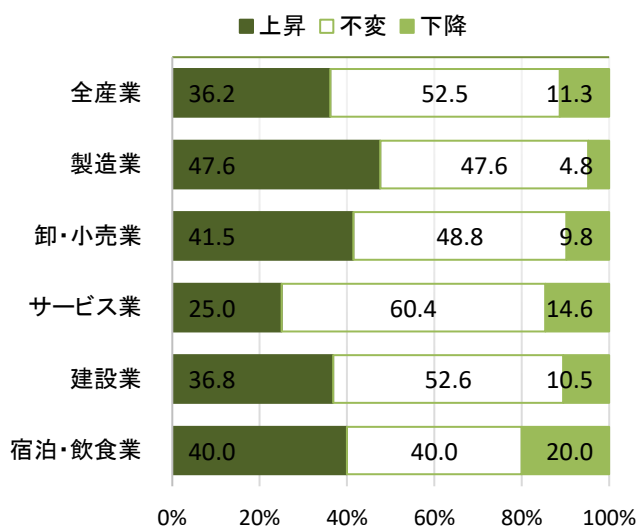


4. 売上単価

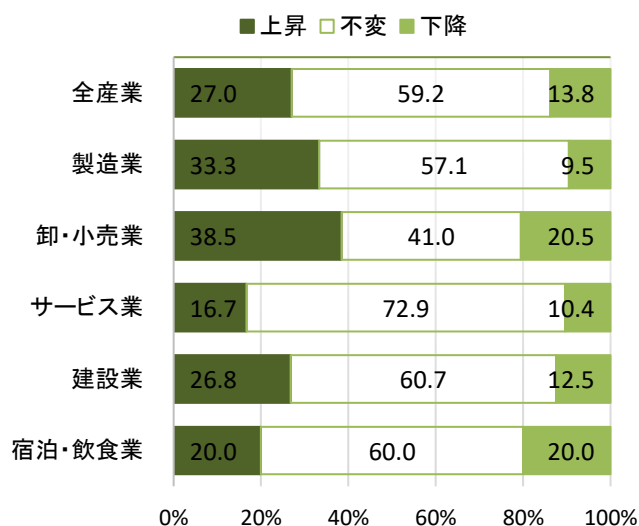
動向

- 2026年4～6月期の売上単価DIは全体で24.9となり、前回調査(2025年10～12月期)の19.6から5.3ポイント上昇した。「上昇」は36.2%、「不変」は52.5%、「下降」は11.3%であった。業種別では製造業で「上昇」の割合が47.6%と最も高かった。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で13.2となり、今期から11.7ポイント低下する見込みである。

【現況】(2026年4～6月期、前期比)



【見通し】(2026年7～10月期、前期比)

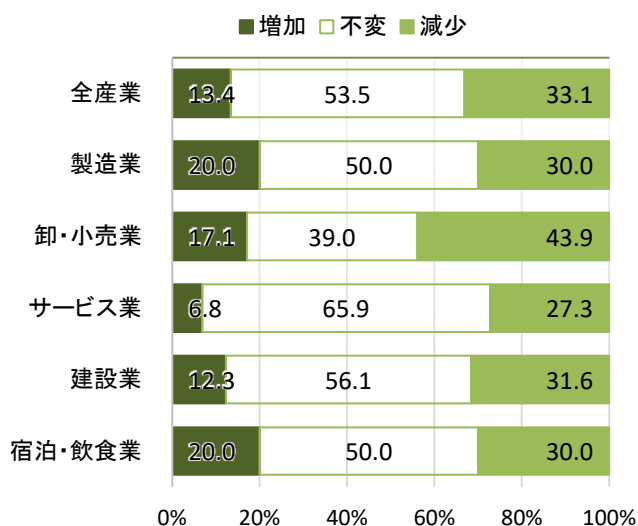


5. 仕入数量

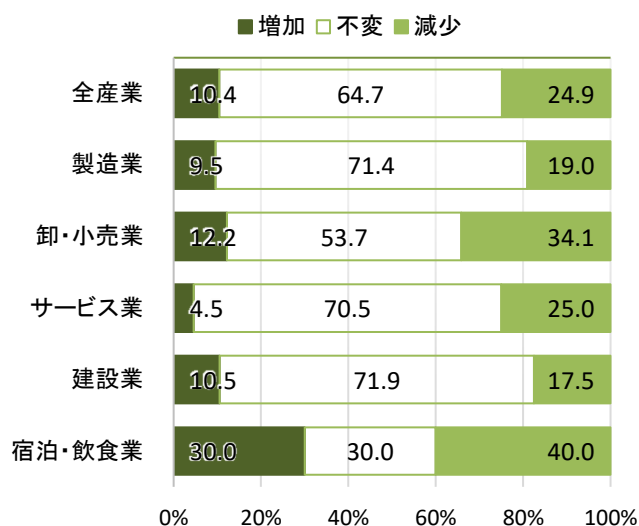
動向

- 2026年4～6月期の仕入数量DIは全体で▲19.7となり、前回調査（2025年10～12月期）の▲6.7から13.0ポイント低下した。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で▲14.5となり、今期から5.2ポイント改善する見込みである。

【現況】（2026年4～6月期、前期比）



【見通し】（2026年7～10月期、前期比）

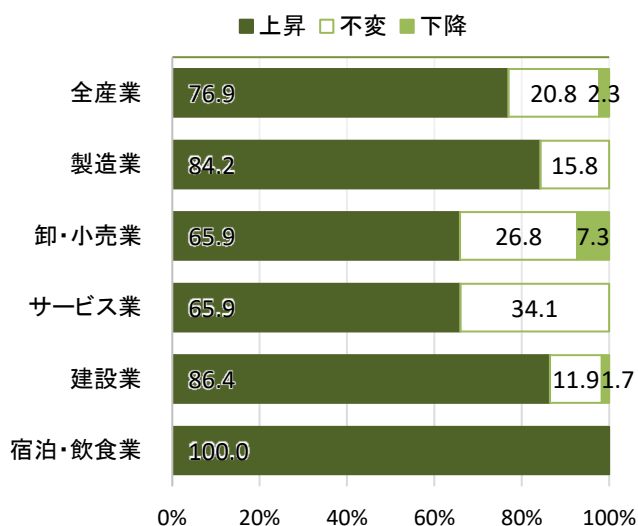


6. 仕入単価

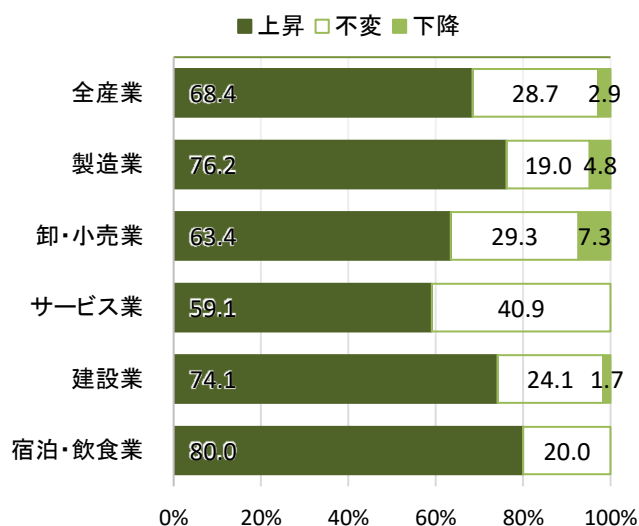
動向

- 2026年4～6月期の仕入単価DIは全体で74.6となり、前回調査（2025年10～12月期）の54.5から20.1ポイント上昇した。「上昇」は76.9%、「不変」は20.8%、「下降」は2.3%であった。業種別では宿泊・飲食業で「上昇」の割合が100.0%と最も高かった。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で65.5となり、今期から9.1ポイント低下する見込みである。

【現況】（2026年4～6月期、前期比）



【見通し】（2026年7～10月期、前期比）

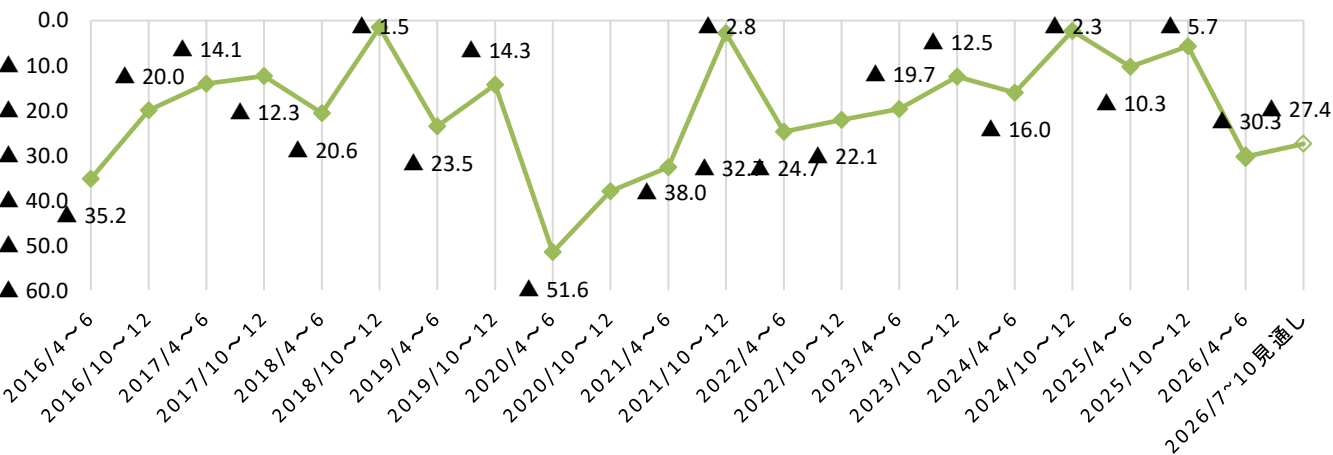


7. 営業利益

動向

- 2026年4～6月期の営業利益DIは全体で▲30.3となり、前回調査(2025年10～12月期)の▲5.7から24.6ポイント悪化した。業種別では宿泊・飲食業を除く全業種でマイナス幅が拡大した。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で▲27.4となり、今期から2.9ポイント改善する見込みである。業種別では製造業、卸・小売業、建設業でマイナス幅の縮小が見込まれる。

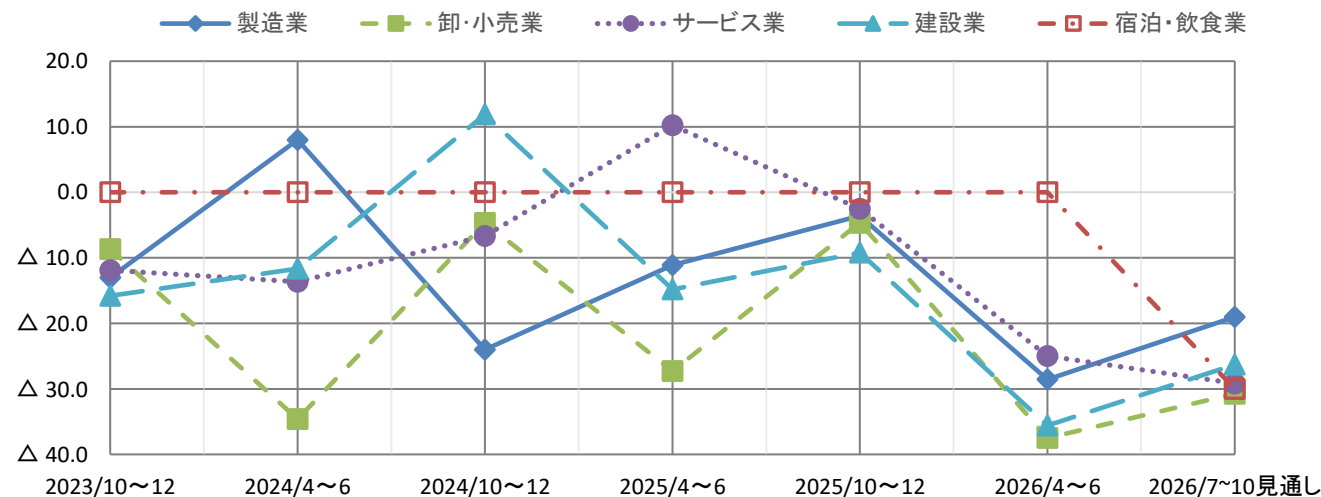
全業種平均DI 《増加－減少》の推移



業種別DI値

業種	前回調査DI (2025年 10～12月期)	現況(2026年4～6月期)			現況DI (好転－悪化)	見通し(2026年7～9月期)			見通しDI (好転－悪化)
		増加 (%)	不変 (%)	減少 (%)		増加 (%)	不変 (%)	減少 (%)	
全業種	▲ 5.7	9.0	51.7	39.3	▲ 30.3	8.0	56.6	35.4	▲ 27.4
製造業	▲ 3.6	14.3	42.9	42.9	▲ 28.6	9.5	61.9	28.6	▲ 19.0
卸・小売業	▲ 4.7	5.0	52.5	42.5	▲ 37.5	10.3	48.7	41.0	▲ 30.8
サービス業	▲ 2.5	8.3	58.3	33.3	▲ 25.0	4.2	62.5	33.3	▲ 29.2
建設業	▲ 9.2	6.8	50.8	42.4	▲ 35.6	7.0	59.6	33.3	▲ 26.3
宿泊・飲食業	－	30.0	40.0	30.0	0.0	20.0	30.0	50.0	▲ 30.0

業種別売上高DI 《増加－減少》の推移

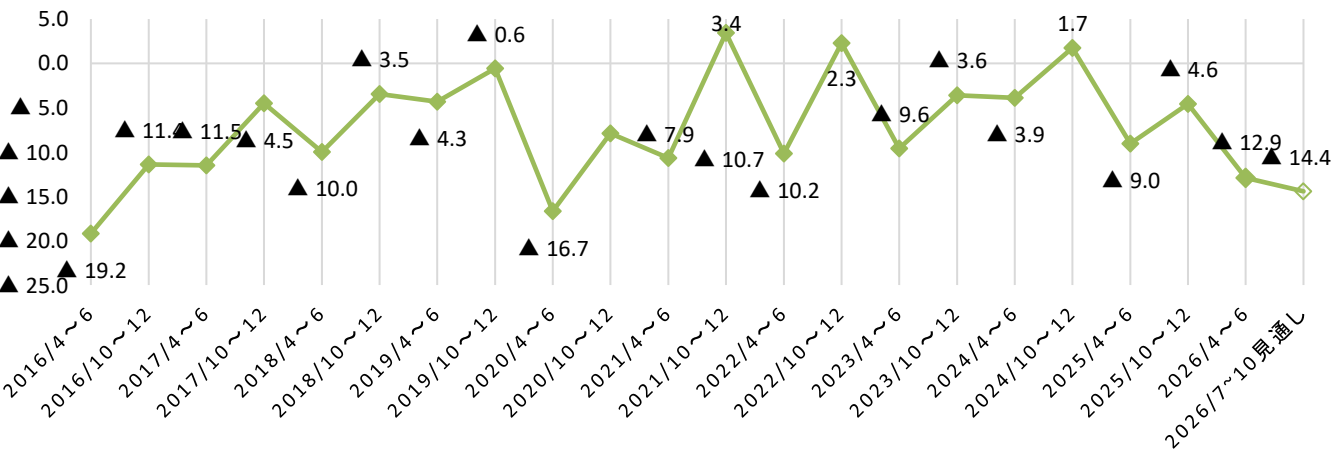


8. 資金繰り

動向

- 2026年4～6月期の資金繰りDIは全体で▲12.9となり、前回調査(2025年10～12月期)の▲4.6から8.3ポイント悪化した。業種別ではサービス業、建設業でマイナス幅が拡大した。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で▲14.4となり、今期から1.5ポイント悪化する見込みである。業種別では製造業、卸・小売業、宿泊・飲食業でマイナス幅が拡大する見込みである。

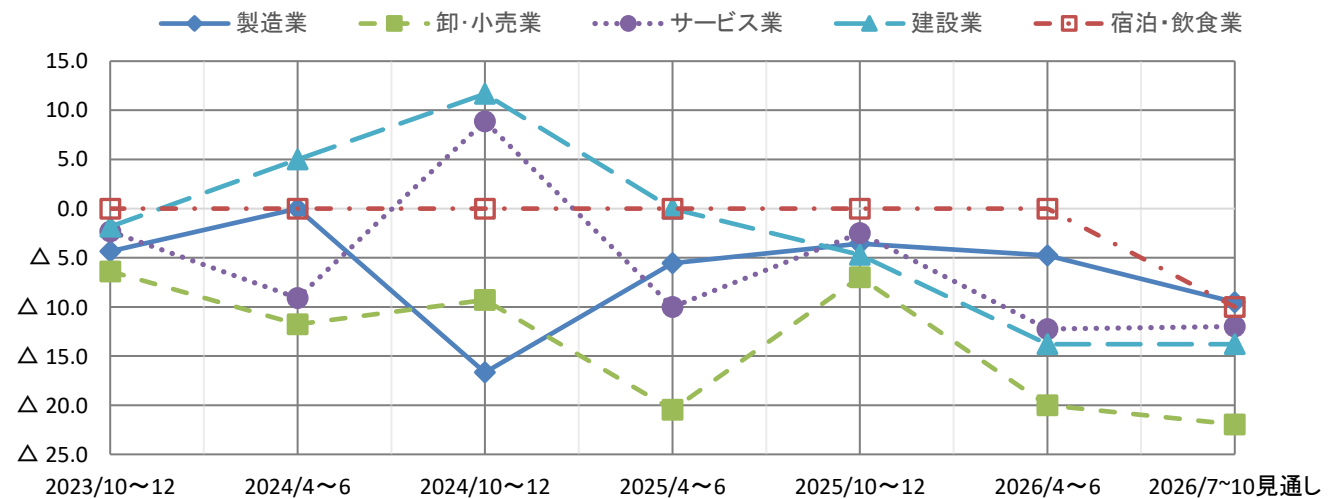
全業種平均DI 《好転－悪化》の推移



業種別DI値

業種	前回調査DI (2025年 10～12月期)	現況(2026年4～6月期)			現況DI (好転－悪化)	見通し(2026年7～9月期)			見通しDI (好転－悪化)
		好 転 (%)	不 変 (%)	悪 化 (%)		好 転 (%)	不 変 (%)	悪 化 (%)	
全業種	▲ 4.6	5.1	77.0	18.0	▲ 12.9	2.8	80.0	17.2	▲ 14.4
製造業	▲ 3.6	9.5	76.2	14.3	▲ 4.8	0.0	90.5	9.5	▲ 9.5
卸・小売業	▲ 7.0	2.5	75.0	22.5	▲ 20.0	2.4	73.2	24.4	▲ 22.0
サービス業	▲ 2.5	4.1	79.6	16.3	▲ 12.2	2.0	84.0	14.0	▲ 12.0
建設業	▲ 4.7	5.2	75.9	19.0	▲ 13.8	3.4	79.3	17.2	▲ 13.8
宿泊・飲食業	－	10.0	80.0	10.0	0.0	10.0	70.0	20.0	▲ 10.0

業種別売上高DI 《好転－悪化》の推移

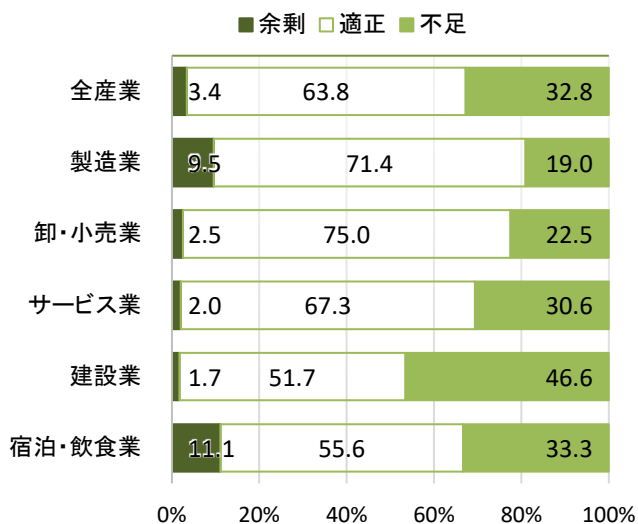


9. 従業員数

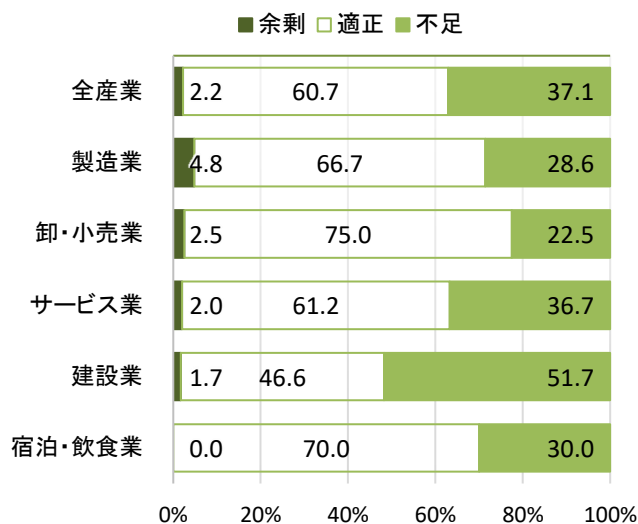
動向

- 2026年4～6月期の従業員数DIは全体で▲29.4となり、前回調査(2025年10～12月期)の▲40.6から11.2ポイント改善した。「余剰」は3.4%、「適正」は63.8%、「不足」は32.8%であった。業種別では建設業で「不足」の割合が46.6%と最も高かった。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で▲34.8となり、今期から5.4ポイント悪化する見込みである。

【現況】(2026年4～6月期、前期比)



【見通し】(2026年7～10月期、前期比)

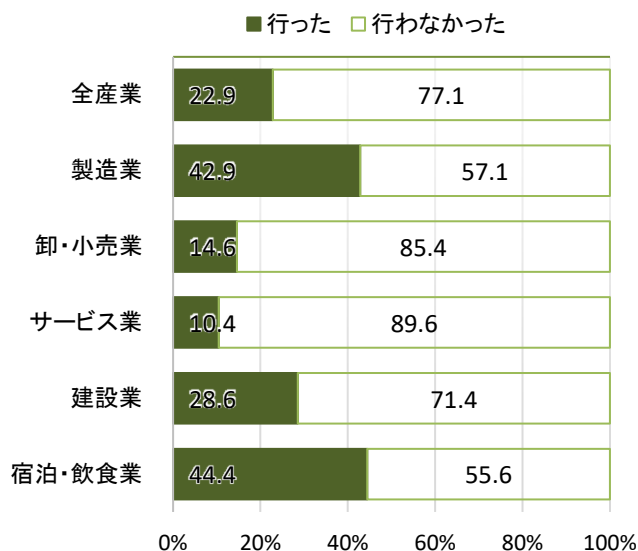


10. 設備投資 ※本年度より新規調査項目

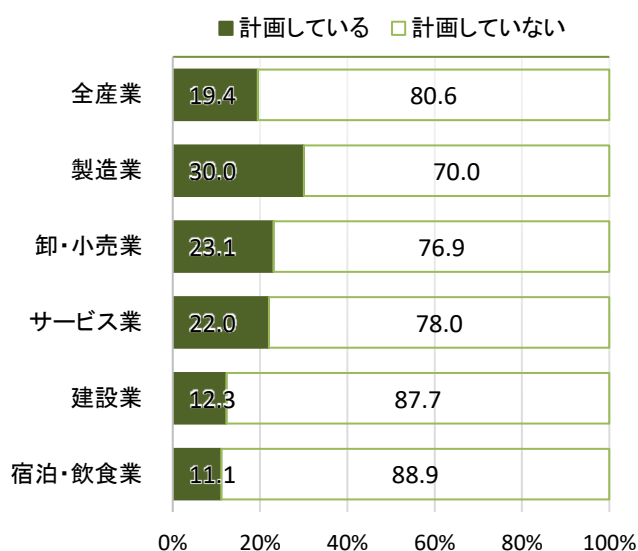
動向

- 2026年4～6月期の設備投資DIは全体で▲54.3となった。設備投資を実施した企業の割合は22.9%であった。
- 2026年7～9月期の見通しDIは全体で▲61.1となり、今期から6.8ポイント悪化する見込みである。次期に設備投資を計画している企業の割合は19.4%であった。

【現況】(2026年4～6月期、前期比)



【見通し】(2026年7～10月期、前期比)



11.【自由記述】景況感・業界および地域動向

製造業	地元で売れない。
	米の値下がり幅が大きくなりそうで新米価格が心配です。肥料、米袋の調達は未だに厳しい状況です。
	機械式腕時計の引き合いが好調のため、当工場の生産数量・売上は上昇傾向。
	半導体業界はAIデータセンター向けのデバイスを中心に大幅な伸長過程にある。弊社もその動向に追随し大型投資を実行しながら能力拡大を計画している。
卸・小売業	オイル不足による値上げ、原油不足から他の商品も軒並み値上げ予定(備品含む)。
	妙高市平均の鉄スクラップの買取金額が去年に比べて上がってきているのでいいと思う。また妙高市のリゾート開発につきましても多少は経済効果が見込まれる。
	原油価格に業界の景気が左右される業種ですから先々が不安です。
	あまりよくはない。
	物価高騰により、酒代にまわらない。
	店舗移転によりお客様への認知度が下がったが、今後上がると思います。
	団体バスの立ち寄りが減った感じがする。
	人口減少や原料高騰による影響から厳しい状況が続いている
	ナフサ由来の資源不足(断熱材、合板、接着剤、シンナー他)の欠品・調達難は少々改善するも、入荷のたび値上げ。7月、9月、10月と値上げの通達あり。調達コスト上昇が心配!
	(情報が遅く、対応できなかったのが失敗)4/1~のメーカー商品ストップと値上げの通達が一度に来た為、今でも入荷待ち、少しずつが続いている状態。見積りが正確にできない。
サービス業	諸物価高による消費者の節約志向が強い。年金生活者は顕著。
	少子高齢化が進み 店の営業よりも出張理容の割合が増えてきている。
	法改正もあり、一つの仕事に時間を費やせざる得なく、こなせる業務の減少も少しある。
	物価高の影響が大きい為、自己投資する余裕が無くなっているように感じる。
	半導体メモリーが高騰し仕入れや販売に影響大です。
	競争激化による受注減少見込。
	物価高騰の為、私達サービス業(美容業)は、お客様の来店回数が減っているように思います。
	人流が鈍く少ない
	道の駅前面道路に信号が設置された都合でガードレールが中央分離帯に設置され、来訪者が回遊できなくなった。満車時の取りこぼしや上り車線からの来訪確保の機会が損なわれたように感じる。
	車業界は2年サイクルで車検台数や売上が上下しており、本年が台数の下回る年に当たっていると思われます。また各業界同様、部品の入荷不足による仕入高の上昇があり、景気としてはあまり良いとは言えないと思います。
建設業	原料ガスは確保できているものの、仕入価格は上昇傾向。政府補助の影響で夏期のガス販売単価は減少する見込み。
	受注動向が影響するため景況感是不明。
	全体的に発注量が少ない
	あまり景気が良くないです。
	石屋としては全国的に年々厳しくなっている気がする。
	閉店していくところもあるので、自社としては次へのエリア拡大・顧客確保できるような展開を考えている。
	資材が入ってこない
	建築様式の変更で和室など無くなり、障子・フスマなどが全く使われなくなり建具店の廃業が多く、新しい建具はほぼ0に等しい程です。和室を持つ家から、フスマ・障子の取替も少しあります。得意分野の掛け軸・額・屏風などの受注を増やしたいものです。
	原材料の価格高騰で、工事の延期が増えてきている
	業界的には中東情勢の影響を受け、ナフサ由来の材料が8割を占める為、材料の供給が止まり、工事の中止・延期を余儀なくされております。
宿泊・飲食業	自社では予定通りの計画で進んでいる。
	資材等の高騰は否めないが、それは皆同じことであり、特に問題はなっていません。
	材料の遅延もさほど問題にはなっていません。
	決して悪くはないが、この先の状況は不透明
	半導体関連好調
	上越地域は仕事は少ない。
	材料の調達が困難だったり、時間を要するものが増えた。
	今年2月にオープンしたばかりなので判りません
	原材料仕入れに難があり売上減少
	・キッチンカーの新規参入が増加・飽和状態
宿泊・飲食業	・酷暑の影響により、夏のイベントが減少⇒売上の減少 ↳ 春先と秋にイベントが集中⇒人が分散してしまう
	・物価高で、財布の紐もきつくなっている様子(単価がゆるやかに下降している)
	景気は良くない。人も動いてないと思う。
	昨年の夏期に比べて、全体的にお客の減少がみられる。

12. ボーナス

動向

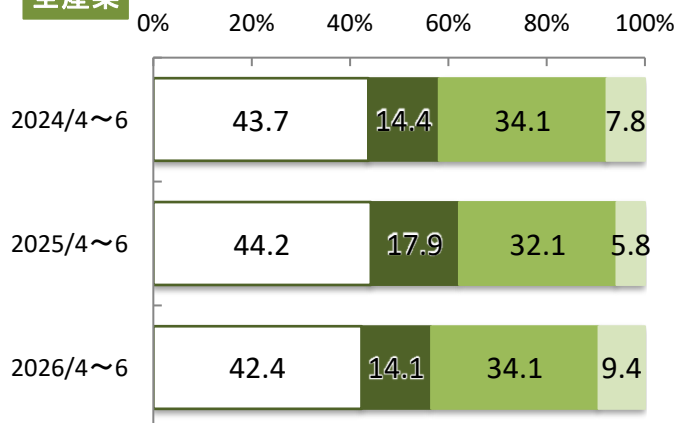
- 2026年夏のボーナス支給状況を全業種についてみると、「支給なし」が42.4%、「支給あり」が57.6%となった。

- 業種別では、「前年より多い」の割合は製造業(33.3%)が最も高く、「支給なし」の割合は宿泊・飲食業(72.7%)で最も高かった。また、2025年夏のボーナスと比較すると、卸・小売業、建設業で「支給あり」の割合が増加した。

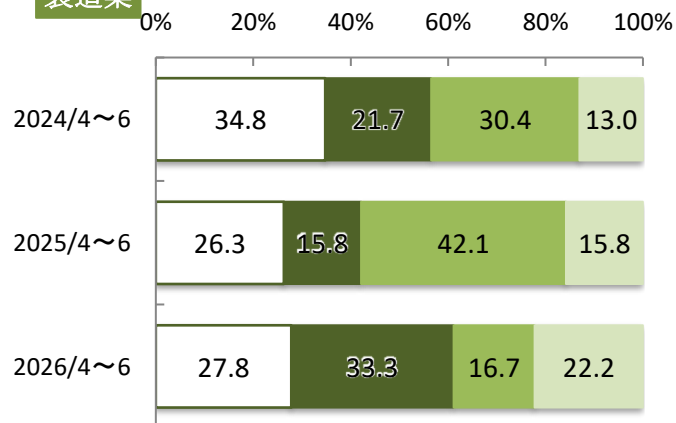
ボーナス支給の推移(業種別)

□なし ■あり(前年より多) ■あり(前年と同じ) ■あり(前年より少)

全産業



製造業



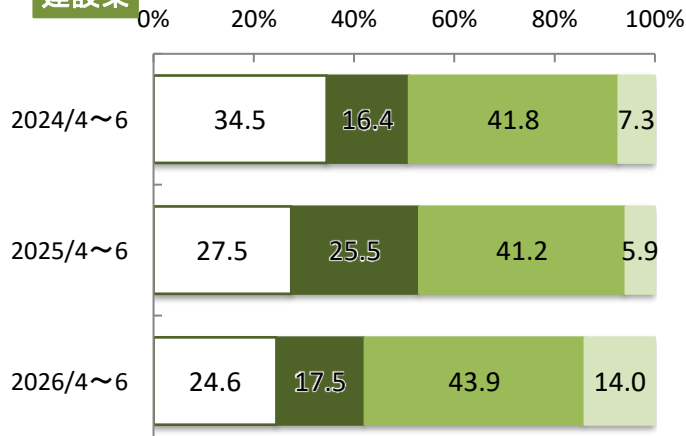
卸・小売業



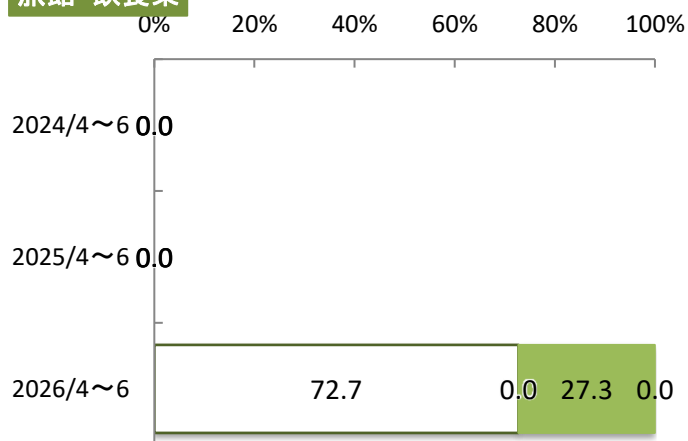
サービス業



建設業



旅館・飲食業



13. 経営上の問題点

	1位	2位	3位
製造業	商品・原材料仕入れ単価の上昇	商品・原材料の調達難 人件費以外の経費の増加	従業員の確保難
卸・小売業	商品・原材料仕入れ単価の上昇	人件費の増加	需要の停滞、売上の減少
サービス業	商品・原材料仕入れ単価の上昇	従業員の確保難	人件費の増加 需要の停滞、売上の減少
建設業	商品・原材料仕入れ単価の上昇	従業員の確保難	商品・原材料の調達難
宿泊・飲食業	商品・原材料仕入れ単価の上昇	人件費以外の経費の増加	人件費の増加

		大企業の進出や過当による競争激化	商品・原材料仕入れ単価の上昇	商品・原材料の調達難	人件費の増加	人件費以外の経費の増加	販売単価の低下・上昇難	金利負担の増加	事業資金の借入難	需要の停滞、売上の減少	従業員の確保難	後継者の育成・確保	その他
業種	製造業	2	14	8	6	8	4	5	1	5	7	4	0
	卸・小売業	3	29	4	16	11	8	3	5	14	13	3	0
	サービス業	2	25	10	15	10	6	4	2	15	18	11	2
	建設業	2	44	24	13	16	9	4	3	21	25	10	0
	宿泊・飲食業	0	11	2	6	7	1	1	0	3	3	0	0
規模別	5人以下	5	55	21	11	18	13	4	6	33	14	10	2
	6～10人	0	29	9	17	11	4	3	4	12	17	9	0
	11～20人	1	19	8	11	10	6	5	1	4	14	5	0
	21人～50人	3	8	3	9	5	3	2	0	3	11	2	0
	51人以上	0	12	7	8	8	2	3	0	6	10	2	0

その他

・競争による受注減少

・人口減少、高齢化